

様式1	令和5年度 清瀬市立清瀬第八小学校	学校評価計画
学校の教育目標	◎よく考え進んでやりぬく子 ・みんな仲よく助け合う子 ・明るく強い元気な子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 確かな力を育てる学校・感謝と笑顔あふれる学校・思い出と夢を語り合える学校 【目指す児童・生徒像】 よく考え進んでやりぬく子 ・みんな仲よく助け合う子 ・明るく強い元気な子 【目指す教師像】 深い子供理解と高い授業力をもつ教師 明るく謙虚で責任感を持ち、互いに高め合い、誇りをもつ教師 教育公務員としての自覚を持ち、誇りをもつ教師	本校の教育目標のもと、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指していく。中でも重点目標である「よく考え進んでやりぬく子」の育成を目指し、授業のねらいが明確であり、「わかる」「できる」「自分の伸びを実感できる」授業を展開する。また、今年度より設置された特別支援学級(自閉症・情緒障害学級)設置校として、通常学級との連携を密にした特別支援教育を展開していく。特に「特別支援教育校内委員会の充実」「ユニバーサルデザイン授業の推進」「インクルーシブ教育の推進」に重点的に取り組むことで、個に応じた指導を充実させる学習環境を整え、きめ細やかな指導を充実させる。
前年度までの学校経営上の成果と課題	「成果」・めあての明確化し、見直しをもって一単位時間に取り組ませたことによる、学ぶ意欲や基礎学力の向上。地域連携による子供たちへの授業・生活サポートの充実。 「課題」・読む力の向上を目指し、「学ぶ楽しさ・自分の伸びを実感できる」授業を展開する。(指導法、発問の工夫、対話の場の設定など)地域連携の輪の一層の充実。	

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	一人一人の児童に基礎的・基本的な学力を確実に定着させ、意欲的・主体的に学ぶ姿勢と思考力・判断力・表現力を育てる。	「わかる」「できる」授業、ねらいの明確な授業、見直しもてる授業の実践を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	授業や宿題などでドリルパークを積極的に活用することで、学習内容の定着を図る。	4 平均して週に4回以上ドリルパークを活用	4 基礎的・基本的な事項の習熟が進んだ児童が80%以上
				3 平均して週に3回以上ドリルパークを活用	3 基礎的・基本的な事項の習熟が進んだ児童が70%以上
				2 平均して週に2回以上ドリルパークを活用	2 基礎的・基本的な事項の習熟が進んだ児童が60%以上
				1 平均して週に1回ドリルパークを活用	1 基礎的・基本的な事項の習熟が進んだ児童が60%未満
			特に読む力の向上をめざし、児童が興味・関心をもてるような、導入の工夫や活動形態の工夫を行う。	4 全体の80%以上で実施	4 児童の自己評価で学ぶことが楽しいと感じた児童が80%以上
				3 全体の70%以上で実施	3 児童の自己評価で学ぶことが楽しいと感じた児童が70%以上
				2 全体の60%以上で実施	2 児童の自己評価で学ぶことが楽しいと感じた児童が60%以上
				1 全体の60%未満で実施	1 児童の自己評価で学ぶことが楽しいと感じた児童が60%未満
豊かな心の育成	思いやりのある豊かな心と正しい規範意識を備えた社会性をもたせる。	教育活動全体で道徳的心情を育て、規範意識と道徳の実践力を高める。	特別の教科道徳を中心として互いに認め合い、思いやる関係を育て、道徳的な心情を喚起し、実践できるようにする。	4 児童の自己評価で、ルールを守って生活できるようになったと答えた児童が90%以上	4 教職員の自己評価で肯定的な回答90%以上
				3 児童の自己評価で、ルールを守って生活できるようになったと答えた児童が80%以上	3 教職員の自己評価で肯定的な回答80%以上
				2 児童の自己評価で、ルールを守って生活できるようになったと答えた児童が70%以上	2 教職員の自己評価で肯定的な回答70%以上
				1 児童の自己評価で、ルールを守って生活できるようになったと答えた児童が70%未満	1 教職員の自己評価で肯定的な回答70%未満
		児童相互、児童と教師のかかわりを大切に、豊かな人間関係の育成を図る。	相手を思いやる言葉遣いや、気持ちが良い合うあいさつを励行する。	4 児童の自己評価で、以前よりあいさつをするようになった児童が90%以上	4 教職員の自己評価で肯定的な回答90%以上
				3 児童の自己評価で、以前よりあいさつをするようになった児童が80%以上	3 教職員の自己評価で肯定的な回答80%以上
				2 児童の自己評価で、以前よりあいさつをするようになった児童が70%以上	2 教職員の自己評価で肯定的な回答70%以上
				1 児童の自己評価で、以前よりあいさつをするようになった児童が70%未満	1 教職員の自己評価で肯定的な回答70%未満
健やかな体の育成	健康な心と体づくりに取り組み、健全な生活習慣を身に付けさせる。	体を動かして活動することが好きな子を育成する。	外遊び・体育授業・芝生を活用した実践など、体力づくりの取組を継続して行う。	4 体力向上のための取組を年間11回以上実施	4 児童の自己評価で運動の機会が増えた児童が90%以上
				3 体力向上のための取組を年間10回実施	3 児童の自己評価で運動の機会が増えた児童が80%以上
				2 体力向上のための取組を年間9回実施	2 児童の自己評価で運動の機会が増えた児童が70%以上
				1 体力向上のための取組を年間9回未満	1 児童の自己評価で運動の機会が増えた児童が70%未満
		心身の健康および日常生活における安全の意識づくりを図る。	「早寝・早起き・朝ご飯」、食育等の実践により体と心を整えさせると共に、安全指導を充実させる。学校だより、保健だより等によって、保護者の啓発にも努める。	4 健康をテーマとした授業や活動を年間6回以上実施	4 児童の自己評価で「早寝・早起き・朝ご飯」ができていると思う子が80%以上
				3 健康をテーマとした授業や活動を年間5回以上実施	3 児童の自己評価で「早寝・早起き・朝ご飯」ができていると思う子が70%以上
				2 健康をテーマとした授業や活動を年間4回以上実施	2 児童の自己評価で「早寝・早起き・朝ご飯」ができていると思う子が60%以上
				1 健康をテーマとした授業や活動を年間4回未満実施	1 児童の自己評価で「早寝・早起き・朝ご飯」ができていると思う子が60%未満
特別支援教育の充実	全校で特別支援教育を展開する。	全教職員で特別な支援を要する児童の情報を共有し、適切な支援や指導を行う。	特別支援委員会(校内委員会を含む)を月に一度以上開催し、配慮の必要な児童の実態に合わせた指導改善を目指す。	4 特別支援委員会の実施が年間24回以上	4 児童の実態に合わせて指導できたと答えた教員が90%以上
				3 特別支援委員会の実施が年間18回以上	3 児童の実態に合わせて指導できたと答えた教員が80%以上
				2 特別支援委員会の実施が年間12回以上	2 児童の実態に合わせて指導できたと答えた教員が70%以上
				1 特別支援委員会の実施が年間12回未満	1 児童の実態に合わせて指導できたと答えた教員が70%未満
		ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりおよび環境づくりを推進し、通常の学級での教室支援を充実させる。	ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりおよび環境づくりを推進し、通常の学級での教室支援を充実させる。	4 ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を行った学級が全体の90%以上	4 児童の自己評価で「安心して学習に取り組める」と答えた児童が90%以上
				3 ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を行った学級が全体の80%以上	3 児童の自己評価で「安心して学習に取り組める」と答えた児童が80%以上
				2 ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を行った学級が全体の70%以上	2 児童の自己評価で「安心して学習に取り組める」と答えた児童が70%以上
				1 ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を行った学級が全体の70%未満	1 児童の自己評価で「安心して学習に取り組める」と答えた児童が70%未満
本校の特色	「地域に根ざす八小」「ふるさと八小」として「開かれた学校」を目指し、地域、保護者の信頼を得る。同時に、八小らしさを大切に、特色ある教育活動を展開する。	「地域の教育力」を活用した授業を実践する。	地域の学習材を活用して、多様な体験の場を設けた授業を実施する。	4 平均して3か月に1回以上実施した	4 地域や保護者が見守ってくれていると感じている児童が80%以上
				3 学期に1回実施した	3 地域や保護者が見守ってくれていると感じている児童が70%以上
				2 年に1回実施した	2 地域や保護者が見守ってくれていると感じている児童が60%以上
				1 実施できなかった	1 地域や保護者が見守ってくれていると感じている児童が60%未満
		「読書の清瀬」を浸透させるために、読書活動を全校で推進し、読書好きの児童を育てる。	読書旬間(年2回2週間)の設定、「スクールeライブラリ」の積極的活用などを通して、「読書が好き」と答える児童を増やす。	4 「スクールeライブラリ」を年間40回以上活用した	4 「読書が好きになった」と答えた児童が全校の90%以上
				3 「スクールeライブラリ」を年間30回以上活用した	3 「読書が好きになった」と答えた児童が全校の80%以上
				2 「スクールeライブラリ」を年間20回以上活用した	2 「読書が好きになった」と答えた児童が全校の70%以上
				1 「スクールeライブラリ」を年間10回以上活用した	1 「読書が好きになった」と答えた児童が全校の70%未満